

Project プロジェクト

3月号

放射線タウン情報

2017.3.1発行 No.13

【編集発行】

南相馬市健康づくり課

☎0244-24-5381



3月11日で震災から6年目を迎えます。避難指示による20キロラインに敷かれたバリケードの記憶も遠い過去のようにも思えます。

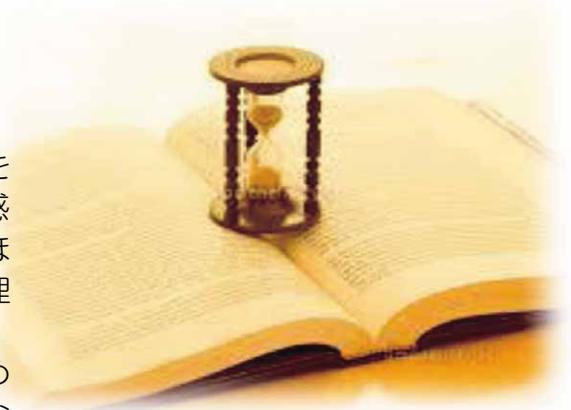
私たちは、この震災と原発事故から何を教訓にし、何をしなければならないのか再度考える必要があるのではないのでしょうか。

薄れゆく記憶 6年前のあの瞬間

様々な放射線測定を開始

原発事故直後、自衛隊員や警察官が全身に白い防護服を身にまとい、特殊なマスクをしていることに危機迫るものを感じたことを覚えています。私たちは放射線に対する知識をほとんど持っておらず、テレビなどで報道される内容も良く理解できない状況でした。

このため市では、市民の放射線に対する不安を減らすために、国・県・専門家の協力を得ながら、平成23年度から様々な測定を開始し、正しい状況の把握に努めました。





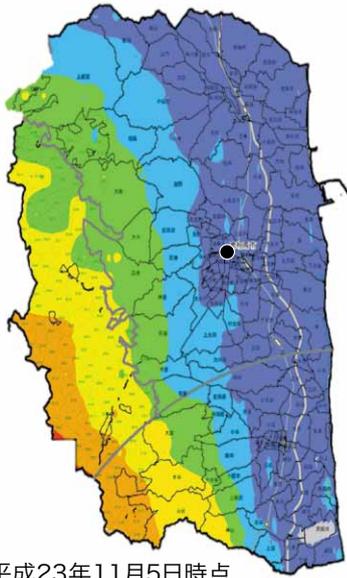
6年でどう変わった?

国・県・市では、放射線の正しい情報を提供するため、様々な放射線測定を実施してきました。今号では、6年間蓄積した測定データから現在の復興状況をご紹介します。

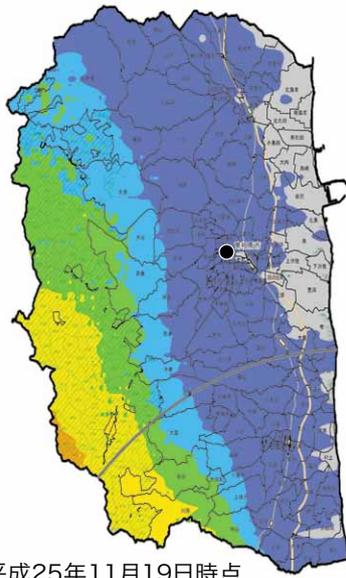
大気中の線量

国が実施している航空機モニタリング(航空機を用いた放射線量の測定)結果を見ると、放射線量は大きく減少していることがわかります。

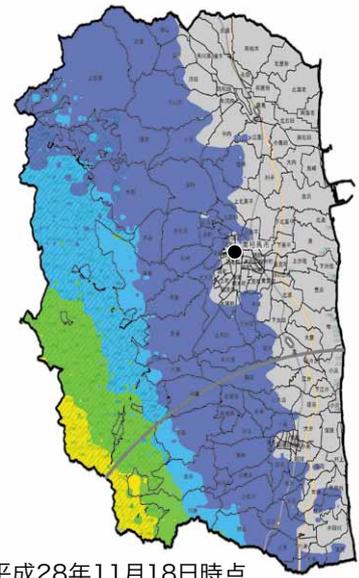
凡例	
年間積算線量 (mSv/Yr)	
150超	赤
100超-150以下	赤
50超-100以下	黄
20超-50以下	黄
10超-20以下	緑
5超-10以下	青
1超-5以下	青
1以下	白



平成23年11月5日時点



平成25年11月19日時点



平成28年11月18日時点

航空機モニタリングの結果を基に内閣府原子力被災者支援チームが作成

大気中の放射性物質



市では、平成26年11月から大気中の細かなちりやほこりに付着した放射性物質を測定しています。

結果から大気中に浮遊している放射性物質の濃度は健康影響を心配する濃度ではないことがわかりました。

これまでセシウム134と137が一番高かった日は平成26年12月10日でしたが、仮に1年間吸い続けたとしても、内部被ばく量は年間で1,000分の1mSv程度です。

地元産米の放射性物質



福島県内のお米は、全量全袋検査を実施しています。

南相馬市のお米は、一部平成25年産米に放射性物質が検出されたものの、平成26年産米以降は基準値を下回る安全な結果となっています。

流通している南相馬市産米は、全て検査済の安全なお米ですのでご安心ください。

自家消費食品の放射性物質



市では、平成24年3月から自宅の畑で作った野菜や採取した山菜など、家庭で消費する食材の測定を行っています。山菜やきのこなどは今でも基準値を超えるものがありますが、畑で採れる野菜の基準値超えは、大きく減少しています。

【野菜の基準値超え】

平成24年度 0.8%

平成28年度 0.3%

【果実の基準値超え】

平成24年度 19%

平成28年度 1.8%

※平成28年度は、平成28年4月から平成29年1月までの測定

平成24年4月以降の米、野菜、魚介類など食品の放射性物質の基準値は、100Bq/kgです。

外部被ばく量

ガラスバッジを用いた外部被ばく線量も時間の経過と共に減少しています。

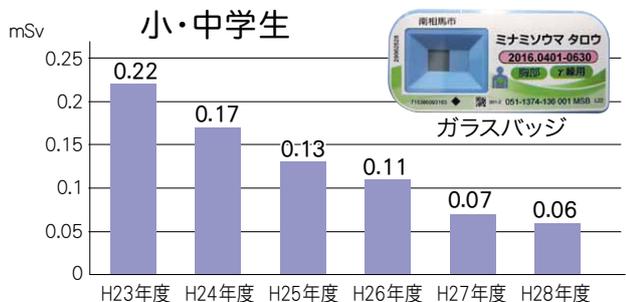


内部被ばく量



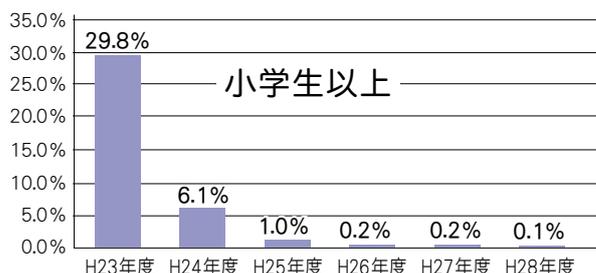
ホールボディカウンターを用いた内部被ばく検診 (市立総合病院)

外部被ばく線量(3か月間)



※3か月間の測定結果のため、値を4倍すると年間被ばく量に相当します。

セシウムが検出された方の割合



市の放射線健康対策委員会
委員長 **渡邊正己**
京大名誉教授

人体への影響

体内から放射性セシウムが検出される方の割合は、時間の経過とともに減少し、現在は非常に低い値で推移しています。また、検出された方から聞き取りをした結果、山で採った山菜・きのこ・山鳥などをそのまま食べていることが分かりました。

一方、スーパーなどで販売されている流通食品を食べている限り、食品による内部被ばくは低く抑えられています。

森林の放射性物質



森林中の放射線量も年々減少しています。県内で継続調査している362か所で見ると、平成27年度の平均値は0.32 μ Sv/hと平成23年度と比較して65%減少しています。

市では、森林再生のため、間伐などの森林整備を実施しています。作業は0.5 μ Sv/h以下の比較的線量の低い地域から順次行っています。

加えて、表土が流出しないように木の柵を設置するなどの対策を行っています。

流通農産物の放射性物質



県では、平成23年度から農林水産物の測定を行っています。

測定値は年々減少し、現在は山菜・きのこなどの一部に基準値を超えるものがありますが、野菜・果実については、平成25年度以降、基準値を超えるものはありませんでした。出荷制限の品目も年々減少しています。

なお、流通している農産物は全て出荷制限が解除された安全な農産物ですので、安心して食べることが出来ます。

魚介類の放射性物質



県では、平成23年度から定期的に海魚も測定しています。値は年々減少し、平成27年4月以降は基準値を超える魚はありませんでした。

現在は、出荷制限を受けている魚も12種までに減少しています。福島県漁業協同組合連合会でも試験操業の魚を測定しており、安全な魚のみを出荷しています。

また、川魚についても県で定期的に測定を行っています。

測定した結果は、市及び各測定団体のホームページで見ることができます。ホームページへはQRコードをご利用ください。



避難されて 問題と不安 いる方の

健康づくり課では、平成27年7月から放射線健康相談員を配置し、避難されている方々のお宅を訪問して参りました。

平成28年12月末まで、2,143件の訪問に加え、電話による聞き取り調査から多くの問題を抱えながら生活していることを再確認いたしました。

市では、訪問等によって確認した課題を一つひとつ解決するため、担当者間で調整を行なっています。



【聞き取りした10項目】

- ① 小高区にスーパーを再開してほしい
- ② 猪に家を荒らされて困っている
- ③ 病院が少なくて困っている
- ④ 介護施設がなくて戻れない
- ⑤ 除染が終わっても線量があまり下がっていない
- ⑥ 公共交通機関を充実してほしい
- ⑦ 地域コミュニティが壊れてしまって今後どうなるのか
- ⑧ 水道水や地元の野菜は本当に安全なのか
- ⑨ 放射線について、具体的な不安はないが、なんとなく不安だ
- ⑩ 住民が少なくて地域共同で行っていた草刈や排水路の掃除をどうしていけばよいか

【放射線への不安内容】 ※複数回答有

なんとなく不安	1,290件
水道水が心配	1,225件
地元の食品は買わない	1,102件
将来がんにならないか心配	853件
井戸水が心配	182件
自家栽培の野菜は本当に大丈夫か	102件
合計	4,754件

市外に避難されている方への 電話相談 実施中!!

市では、放射線に関する不安や疑問にお応えするため、「放射線健康相談員」を配置し、相談活動を実施しています。

これまでは、市内の仮設住宅や借上げ住宅にお住まいの方を対象に戸別訪問を行って参りましたが、平成28年11月からは、市外に避難されている方への電話相談も開始しました。

市の相談員から電話があった際は、趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

皆さまからいただいたご意見は、今後の市政に反映していきたいと考えております。



【相談窓口】 市役所東庁舎 1階西側
 【専用ダイヤル】 ☎0244-24-5415
 【受付時間】 9:00～17:00

